

普及センターだより

# くりはら

## 第 135 号



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。  
応援します。農業普及

〒 987-2251 栗原市築館藤木 5-1  
TEL 0228-22-9404 (地域農業班)  
0228-22-9437 (先進技術班)  
FAX 0228-22-6144  
E-mail khnokai@pref.miyagi.jp  
URL <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khgsin-n/>

### 宮城県栗原農業改良普及センター

経産牛の区で最優秀賞を獲得した瀬峰地区の佐藤聖さん



昨年、宮城県総合畜産共進会肉用牛の部  
(プレ全共) が開催されました。

宮城県で育成された水稻新品種  
東北 210 号の名称が決定しました。



新品種の名は「だて正夢 (まさゆめ)」に決定!

## 栗原農業の活性化に向け、この好機を逃すな!

栗原地域における平成 26 年の農業産出額は 193.7 億円で、うち水稻が 89.1 億円 (46%) 畜産が 85.7 億円 (44.2%) (H28.12.22 農林水産省公表) となっており、この 2 つの部門で約 9 割を占め、この状況は過去から変わることなく、ある意味この地域の特徴と言える。そういう意味においては、今年は大きな好機・重要な年になるに違いない。

一つは、第 11 回全国和牛能力共進会宮城県大会の開催である。肉用繁殖牛を主体に県内有数の産地である当地域を、全国に知らしめる絶好の機会であり日頃の研鑽を十分に発揮し日本一獲得を期待したい。さらに、金成地区で生産され、歴代最高の脂肪交雑成績を記録し、昨年本県の基幹種雄牛となった「茂洋美 (しげひろみ)」が当地域においても着実に交配がなされ、肉牛として出荷される 3 年後が楽しみである。

二つめとしては、水稻新品種「だて正夢」である (特徴等は後記参照)。各県では軒並み新たな水稻品種をデビューさせ、競争激化の状況にあるが、本県ではこの「だて正夢」を「ひとめぼれ」「ササニシキ」とともに、「みやぎ米」のブランド化に向けた三本柱に位置づけ、県をあげて消費者に選ばれる米づくりを推進する。

当地域は一等米比率が県内でも最も高く良食味米の産地として知られており、本品種も取り入れた「栗原産米」のブランド構築に期待したい。

普及センターとしてもこのタイミングを好機として捉え、栗原市・JA 栗っこと力を合わせて、生産の拡大・ブランド化に取り組みたい。

今年は酉年、「全共宮城県大会における日本一獲得」や「水稻新品種だて正夢」など、この栗原地域に「トリ」込んで飛躍の年としたい。

所長 守屋明良

農地中間管理事業を活用しましょう



## プロジェクト課題紹介



NO.1

### 「土地利用型大規模経営体の育成による地域農業の活性化」

本課題では、一迫地区の有限会社川口グリーンセンターをモデル経営体と位置づけ、大規模経営体の経営効率化に向けた活動や地域農業活性化を支援しました。

今年度は、ICT活用による生産管理の改善として、営農支援システム「Akisai」を活用したGAP導入と可変施肥田植を実証しました。対象経営体では、JGAP項目の確認や指導員による模擬審査等を通じてGAPへの取組が定着しつつあります。また、可変施肥田植機実証では、肥料の8%を削減できました。

また、低コスト省力化技術として、水稻乾田直播栽培の実証を行いました。目標の収量を下回ったことから、次年度は目標達成に向けて、播種・耕耘方法や施肥管理を見直す予定です。

農地の集積に向けた活動では、地域農業の活

化を図るため、金田地区の担い手の連携強化を支援しました。8月には担い手の連携協定が締結され、現在、ほ場整備について研修し、実施の可能性について検討しています。

これらの結果を踏まえ、次年度も継続して支援活動を行います。



JGAP 模擬審査の様子



NO.2

### 「地域農業を担う農事組合法人の経営安定化」

本課題では、志波姫地区で平成26年度に設立された2つの集落営農法人（農事組合法人 iファーム、農事組合法人大江北）の経営安定化に向けて、法人運営体制の確立、経営計画の策定、経営管理能力向上等の支援を行いました。

2つの法人に対し収支計画や資金繰り表等の作成を促すとともに、経営管理能力向上のため、中小企業基盤整備機構の「経営自己診断システム」を使った経営分析手法を学習する機会を設けました。その結果、役員の経営管理に対する意識が高まりつつあります。

さらに、iファームでは、飼料用米の低コスト生産に向けて、本年度からべんがらモリブデン被覆種子利用による直播栽培試験に取り組み、飼料用米の生産費が昨年度より低減されました。また、複合部門としてエゴマの試験栽培を開始し、その

利用を検討しています。大江北では、穀類乾燥調製施設の整備を現在進めており、作業受託面積等を拡大しながら「栗原・めだかつこ米」の独自販売等を目指すこととしています。

今後も経営管理面をフォローアップしながら、各法人の経営安定化に向けて支援していく予定です。



水稻直播現地検討会（iファーム）



NO.3

### 「繁殖牛経営に取り組む新規就農者の経営管理能力の向上」

本課題では、黒毛和種繁殖牛経営での認定新規就農者2人を対象とし、経営管理と飼養管理の基本技術習得について支援しました。

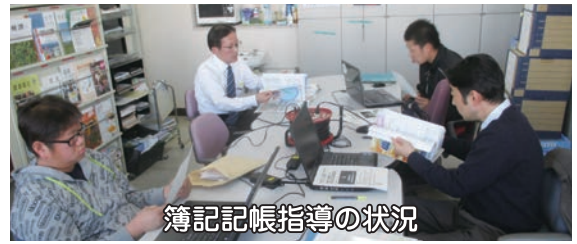
今年度は、普及センター主催の栗原農業未来塾（畜産経営管理能力向上研修会）、農業簿記基礎講座への参加を誘導し、経営管理の基本事項を習得した上で、複式簿記、資金繰り表、資産管理台帳等の関連帳簿の作成、整備を支援しました。加えて、飼養管理面では繁殖管理台帳の整備を支援し、それらの記帳により、データに基づく客観的

な経営管理と飼養管理が行える状況になりつつあります。さらに、生産者自らが経営と生産の状況を判断し、改善策を立てるP D C Aサイクルを構築し、安定的な経営の発展につながるよう支援しました。

これらの営農活動の実践に必要な飼養管理面では、家畜の一般管理技術の習得支援に加え、家畜個体の栄養状態の判断技術習得支援を行い、対象者2人とも繁殖牛の受胎状況は良好となっています。来年度も自給飼料の生産と給与技術の習

得および 2 産目以降の繁殖管理技術の習得について継続して支援していきます。

肉用繁殖牛経営を目指す就農者は近年増えていますが、このプロジェクト活動を通して、就農者の各種台帳の整備やデータ管理手法の確立を図り、新規就農者の育成及び定着を支援していきます。



簿記記帳指導の状況



## 「ズッキーニの安定生産と産地の育成」

本課題では栗っこ農協、栗原市、県が一体となって目指しているズッキーニ産地育成（目標は平成 32 年に販売額 1 億円）に向けて、栽培技術の向上や産地 PR 活動を支援しました。

栽培技術向上支援では展示ほの設置運営や現地検討会での指導などを行い、展示ほでは、基肥施用時に緩効性肥料を追加すれば、収穫期の追肥作業を省略しても収量が変わらないことが確認できました。産地 PR 活動ではズッキーニ料理レシピの作成・量販店への配布支援、栗原市内の飲食店や県庁食堂、栗原市内の学校給食でのズッキーニ料理フェア実施などにより、県内や地元での認知度向上を図りました。

平成 28 年の栗原産ズッキーニの産地規模は、平成 27 年の 7 h a から 10 h a へと作付面積が増加しましたが、台風と多雨により 8 月、9 月が

不作となった影響で、販売額は前年同等の 2,900 万円となり伸び悩みました。

本課題の活動 2 年目となる平成 29 年度は、計画的な作付け、追肥省力化技術の普及、出荷物の規格選別徹底などを重点的に支援する予定です。また、県内や栗原市内でのさらなる認知度向上に向け、料理フェアや栗原市民まつりでの PR などを引き続き支援していきます。



出荷査定会の様子



## 「地域農業の核となる農産物直売所の魅力アップ」

本課題では、平成 20 年の岩手・宮城内陸地震や平成 23 年の東日本大震災の影響により来客数や販売額が減少し、未だ震災以前の水準に回復していない、栗原市金成地区の「あぐりっこ金成」を対象に震災以前を上回る販売額を目指し、魅力ある店舗づくり、餅菓子加工品の商品開発、農産物の品揃えの改善に向けた取組を支援しました。

今年度は、店舗改善や商品の磨き上げ、POP の活用による情報発信についての研修会を開催するとともに、直売所の現状を確認するための利用者や出荷者を対象にしたアンケート調査・農産物の販売状況調査等を通じて、魅力ある店舗づくりのための取組を支援しました。この結果、店舗内での

POP による情報発信の強化や餅菓子商品のパッケージの変更など、店舗や商品の改善に向けた機運が高まりました。今後も直売所を核とした農産物の生産振興や地域活性化を目指した魅力ある店舗運営、品揃え充実に向けて支援していきます。



民間専門家による研修会の開催

## 環境にやさしい農業を支援します

化学肥料・化学合成農薬を慣行レベルから原則 5 割以上低減する取組と合わせて、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い以下の取組を行うと、環境保全型農業直接支払交付金が受けられます。

**対象者：**農業者（2 戸以上）の団体で申請します。

**支援対象となる農業者の要件：**①販売を目的に生産を行なっていること。②エコファーマー認定を受けていること。③農業環境規範に基づく点検を行っていること。④環境保全型農業の推進活動に取り組むこと。

**申請窓口・申請期限：**栗原市産業経済部農業政策推進室（☎ 0228-22-2180）に 6 月末日までに申請します。

**その他：**要件②のエコファーマー認定を受けるためには、3 月末日までに別途申請が必要です。詳しくは宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所 農業振興部地域調整班（☎ 0228-22-2268）までお問い合わせ下さい。

対象取組 (宮城県)	10a 当たり交付単価 (国と県と市の合計)
カバークロープ(緑肥)	8,000 円
堆肥の施用	2,200 円～ 4,400 円
有機農業	3,000 円～ 8,000 円
冬期湛水管理	8,000 円
リビングマルチ	8,000 円
草生栽培	8,000 円

※国の予算措置により単価が調整される場合あり

農薬は登録内容をよく見て使いましょう

# 水田転作での園芸生産に取り組んでみませんか

## ～加工・業務用野菜のご紹介～

米の消費が年々減退しており、県としては農業の収益力強化に向けて、食と農の県民条例基本計画の中で、園芸振興に積極的に取り組むこととしています。この方針を受け、栗原地域事務所においても栗原地域産地戦略プラン（平成28～32年度）を定め、いちご、きゅうり、トマト、キャベツ、かぼちゃ、ズッキーニの6品目を最重点品目とし、栗っこ農協、栗原市などの関係機関と連携して生産振興を図っています。

今回は水田転作での園芸生産の一環として、取組拡大が期待されている加工・業務用野菜をご紹介します。水田活用方法の一つとして是非検討してください。

### ◆加工・業務用野菜の動向

- ・青果市場からスーパーや八百屋を経由して一般家庭で消費される野菜は減少傾向
- ・農林水産政策研究所の調査では国内の野菜需要のうち約6割が加工・業務用
- ・外食、総菜、カット野菜などの実需者に販売される加工・業務用野菜の需要が増加傾向

### ◆加工・業務用野菜の経営上のポイント

- ・栽培品目は卸売会社や食品メーカーなど販売先との相談でニーズのあるものを選ぶ
- ・単価ではなく作付面積で必要な収入を確保する。栽培面積は1ヘクタール単位で考える
- ・大面積を省力的に栽培するために、定植、防除、収穫といった作業の機械導入に取り組む
- ・収量確保で最も重要なのはほ場の排水。暗さよなどの排水対策を徹底する
- ・ほ場整備時には排水とかん水を両立できる地下水位制御システムを導入すると栽培上有利

### ◆県内の先駆取組事例

取組者	品目・作付面積	販売先	特徴
JA加美よつば 取組生産者 約200名	キャベツ 20ha	カット野菜業者	地元の食品企業との取引がきっかけ。加美町は水田活用交付金で優遇して作付推進
	はくさい 10ha	漬物業者	
	加工トマト 4ha	トマトケチャップ業者	
JAみどりの 美里ポテト部会 取組組織8組織	ばれいしょ12ha	ポテトチップ業者	ポテトチップス業者からの提案がきっかけ。機械化一貫体系導入（定植、防除、収穫など）

### ◆県による加工・業務用野菜への支援事業の一例

事業名	助成内容	助成額	対象
市町村振興総合補助金（園芸特産重点強化整備事業）	・機械導入 ・施設整備	購入額の1/3以内	農協、農協部会、農業法人、任意組合（3戸以上）など
加工・業務用野菜産地育成強化事業	・低コスト省力化、品質向上等の技術実証試験と需要調査	実証ほ、需要調査などを県と支援対象者が共同で実施し、費用を県費で負担	農協、農業法人、集落営農組織等

※上記支援事業は原則、県（普及センター）へご相談いただいた年度の翌年度に実施となります。

# 今年の稲作は ココがポイントです



東北農政局の発表では平成 28 年の作況指数は 105 でやや良、10a 当たり収量は県北部で 563kg、県の 1 等米比率（11 月末）は 90.1% で、収量、品質ともに平成 27 年を上回りました。

## 平成 28 年の課題と今年の対策

### 【施肥・土づくり】

平成 28 年産米は、出穂後は高温多照で、日較差が大きく経過したこと、8～9月の降雨により土壌水分が保たれ、登熟が進んだために、品質はおおむね良好でした。ただし、古川農試の解析では、穂揃期の葉色が期待葉色値（33～35）であるほど白未熟粒比が少なく、穂揃期から出穂 25 日後までの葉色の低下が大きいほど白未熟粒の発生が多くなる傾向が見られました。このことから、施肥管理においては、ほ場の地力を加味した上で、必要以上に窒素を控えず、期待葉色値を維持し、葉色を極端に低下させないようにしましょう。また、地力維持のために、堆肥やわら等の有機物やケイ酸カリなどの土づくり資材を施用しましょう。

### 【雑草】

管内ではノビエ、イヌホタルイ、オモダカ、クログワイ等の残草が確認されました。

除草剤の効果を最大限に発揮させるために、畦塗りや畦畔補修、丁寧な代かきを行い、ほ場条件を整えましょう。雑草の残草状況に応じて除草剤を選択し、初期剤と中・後期剤との体系処理を実施することにより効果的に防除することができます。



### 【水管理】

水稻の生育ステージにあわせた水管理を行いましょう。品質低下防止のため、早期落水を避けましょう。

### 【病害虫】

斑点米カメムシ類の発生が多く、斑点米の発生も多かったため、着色粒（カメムシ類）を原因とする落等率が平年より高くなりました。管内の西部では、一部のほ場でいもち病が多発しました。近年無防除が続いている紋枯病は、被害程度が高いほ場がありました

斑点米カメムシ類の防除は、穂揃期とその 7～10 日後の 2 回防除が基本です。水田内の雑草発生が多い場合は、1 回目の薬剤散布時期を出穂始～穂揃期に早めましょう。

いもち病の防除で箱施用剤を使用する場合、1 箱当たりの施用量が規程量より少ないと十分な効果が得られません。箱当たりの施用量は登録内容を遵守しましょう。箱施用剤による予防防除を実施しない移植栽培や直播栽培では、葉いもちの感染好適日の出現状況等の情報に留意して、水面施用剤等による本田防除を実施しましょう。

紋枯病の防除は、要防除水準を参考に、必要に応じて、箱施用剤や本田での防除を行いましょう。（要防除水準：本田防除の場合：「ひとめぼれ」では出穂直前（穂ばらみ期）の発病株率で 18%、翌年の予防防除要否の目安：収穫直前の発病株率で 40%）

## 水稲新品種・極良食味米 「だて正夢」

まさゆめ



「だて正夢」は、古川農試で育成された「もっちり」とした食感をもつ低アミロース米で、冷めても柔らかく、粘りがあります。

「ひとめぼれ」と比べて、出穂期、成熟期は数日遅い中生品種で、穂数は少なく、収量性は並～やや劣り、千粒重は軽いです。白米アミロース含有率は 9～15% で、「ひとめぼれ」と「たきたて」の中間で、玄米は「たきたて」より白濁しません。

県では、本品種をみやぎ米を牽引するブランド米と位置づけ、平成 30 年から本格作付を開始する予定です。

来作に向けて土づくりを実施しましょう

## 宮城県農林産物・花き品評会

平成28年10月15・16日に開催された「みやぎまるごとフェスティバル2016」の農林産物・花き品評会の受賞者を紹介します。

栗原からは農林産物品評会に41点、花き品評会には24点が出品され、来場した多くの方々に栗原産農林産物の質の高さを知っていただく良い機会となりました。受賞された皆様、本当におめでとうございました。



農林水産省生産局長賞を受賞した片倉氏

### ◆宮城県農林産物品評会受賞者

品名	受賞者氏名（敬称略）	受賞名	地区
ねぎ	片倉 栄 治	知事賞1等 生産局長賞	瀬 峰
水稲（うるち玄米）	有限会社 狩野農友	知事賞2等 政策統括官賞	栗 駒
ズッキーニ	岩 淵 幸 夫	知事賞2等	若 柳
水稲（うるち玄米）	nano 悠久農産株式会社	知事賞3等	栗 駒
水稲（うるち玄米）	佐々木 裕 章	知事賞3等	志波姫
キャベツ	菅 原 鉄 雄	知事賞3等	志波姫
トマト	有限会社サンアグリしわひめ	知事賞3等	志波姫

### ◆宮城県花き品評会受賞者

品名	受賞者氏名（敬称略）	受賞名	地区
その他切り花	白 鳥 幸 彦	金 賞 宮城県議会議長賞 仙台生花株式会社賞	一 迫
パンジー	千 田 律 子	金 賞 仙台市長賞	金 成
ペゴニア	千 田 智 也	銀 賞	金 成
パンジー	岩 淵 光 男	銀 賞	若 柳

## 栗原ふぁーみんぐ女子会で女子力を磨きませんか？

普及センターでは、栗原市内の農村女性リーダーの育成や若手女性農業者同士のネットワークの構築、資質向上を目的として「栗原ふぁーみんぐ女子会」を企画しています。今年度第1回目として平成28年12月20日に、美術に造詣の深い風の沢ミュージアムのスタッフを講師に迎え、チラシやポップの効果的な作成方法についての講習会を開催しました。参加者は、講師から作成のポイントや手順を聞いた後、作り上げた作品へのアドバイスをいただいたり、お互いに見せ合っってアイデアを共有したりしました。

アグリビジネスに興味のある方や、女性農業者同士の交流を広げたい方を対象にした講座などを今後も開催しますので、興味のある方は、普及センターまでご連絡ください。



チラシ・ポップ作成講習会

## 『4Hクラブ』で一緒に栗原農業を盛り上げよう！

栗原4Hクラブは現在15人の会員がおり、管内の新規就農者や県農業大学校生の励励会、他地区の4Hクラブ員との交流を通じた仲間づくり、自らの資質向上、地域活性化への貢献につながる幅広い活動を行っています。

今年度の4Hクラブ活動の柱としては、農業経営をしていくうえでの身近な課題の解決方法を検討するためのプロジェクト活動を行いました。プロジェクトでは、栗原の農産物の知名度向上・販売拡大に向けて、消費者の購入ニーズを調査しながら「売れる農産物・商品とは何か？」について、クラブ員一丸となって検討しました。

栗原4Hクラブでは、「何事も楽しんでやる！」をモットーに活動しています。若い農業者同士の情報交換や仲間づくりをしたい方など自己啓発に興味のある方は、普及センターまでご連絡ください。



プロジェクト活動でのアンケート調査

農業生産工程管理（GAP）に取り組みましょう